



TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学大学院歯学研究科

歯学部

病院歯科部門

NEWSLETTER

第9号 Jun 2012



歯学研究科の発展へ向けて

歯学研究科長 佐々木 啓一



はじめに 歯学研究科長に再任されました佐々木です。前期2年間は一昨年から臨床研究棟の改修工事に加え、昨年3月の東日本大震災による被災とその復興、さらには身元確認や被災地支援など予想だにできなかった事態に直面し、

悩む日々が続きました。何分にも経験も浅く力不足であり、皆様には多大なご迷惑をかけ続け、厳しいご叱責、ご批判を受けてきましたが、それでもどうかここまで研究科が生き残ってこれたのは、ひとえに教職員、学生やOB諸氏等からのご支援、ご厚情によるものと思っております。ここに深く御礼申し上げます。

また3月末をもちまして、永らく本研究科の発展にご尽力いただきました林治秀教授、越後成志教授、小松正志教授、川村仁教授が定年退職を迎えられました。これまでのご貢献に対して心から感謝申し上げます。いずれの先生にも4月以降も名誉教授、大学院非常勤講師として教育研究にご助力いただくこととなっておりますが、研究科は大きな変革の時を迎えています。

このような状況のなか、研究科の改善強化は当初の予定通りとは言えませんが、研究科内の理解を得、少しずつ前進しています。ここで進みつつある組織改革についてご紹介いたします。

歯学研究科再編（大講座制への移行） ご承知のように国立大学では平成16年度の法人化以降、人件費も含め運営費交付金が毎年1%ずつ減額されてきました。東北大学では法人化に際し役員や中央枠教員分の人件費としてそれまでの部局人件費から5%控除されました。そして部局教員については、部局ごとの総教員数枠と総教員人件費枠内において部局で運用できる仕組みを作りました。部局に裁量が任せられている大学は極めて稀です。ここでいう教員数とは、退職金が国から措置される教員であり、年俸制教員は含みません。

そこで歯学研究科としては教員定員の枠全てを埋めても、また今後も想定される減額にも耐えうるであろう87名（病院枠は含まず）を上限に設定し、これを分野に配分しています。平成15年度では95名の定員でしたので、かなりの削減です。一方では、大学そして各部局の研究業績、教育活動、社会貢献などが評価され、そのランキングが公開されています。それに応じた予算配分がなされるようになりました。すなわち評価に耐えうる活動と成果が求められています。病院も然りで、こちらには収入・支出というさらに厳然たる指標が存在します。

部局内からは当然、人員減、負担増等への不満が出て来ます。しかし従来の大学とは全く異なる状況下に置かれていることも、各構成員には認識していただかなければなりません。歯学研究科では、おかげさまで研究教育成果は目にみえて向上しています。特にプロジェクト経費や科研費等の外部資金獲得の増加は著しいものがあり、ご貢献をいただいている皆様に感謝しています。今後は構成員の負担軽減、研究教育環境の整備・向上を図りつつ、教員数減と人事の停滞の影響を強く受けている若手へ活躍の場を提供することが大きな課題となります。

私どもが行おうとしていることは、関連する分野間の連携を密

にし、そのグループに教員が所属し特に教育部分を、臨床系では臨床部分を含めて共に担っていくという、いわゆる大講座制への移行です。グルーピングが難しい領域もありますし、分野の独立性を危惧する声もありますが、定員内教員の分野配分を増やすことが難しい現状においてスケールメリットを活かし、かつ教育内容の重複等を避けた効率的な運営が行える方法だと考えます。その具現化が、高橋 哲教授を迎え、4月から活動を開始した顎顔面・口腔外科学分野です。将来的にはもう一人、高橋教授とは別領域に特化した教授を配置し、より強力化を図ることと教授会で決定しています。補綴系、保存系という枠組みでは個々の分野を残した「グループ」という形態になるでしょうが、どうかか形にできればと考えています。

一方、前述したように東北大学では人件費枠内での部局裁量が認められています。分野配置定員の人事は分野・グループの裁量に委ねますが、人件費総枠は各職階の平均給与とその員数により決まっていますので、教授、准教授枠が空いていけば、また年齢構成が低ければ人件費の余剰分が出て来ます。4月からは、この枠を使って将来有望な5名を年俸制教員として採用しました。また大型研究プロジェクトや寄附講座などの外部資金での教員採用も行っています。学内他部局とは比べれば少数ですが、他大学の歯学部と比べれば突出しています。しかし、これら定員外教員は恒久的に確保しているわけではなく、外部資金の獲得に繋がる研究教育成果と研究科内でのより一層の人事の活性化が求められています。

高橋 哲教授のご紹介 このような中での教授人事は研究科のさらなる発展に應えるものでなければなりません。高橋 哲教授は国内の関係者においても納得の人事です。高橋先生については既にご存じとは思いますが、本学部の13回生で、卒業後は手島貞一教授の旧口腔外科学第二講座の大学院に進まれ、熊谷勝男教授のもとで免疫系の研究を行い、学位を取得されました。その後、海外での長い研究生生活を経て秋田大学医学部の口腔外科に転出、平成12年に九州歯科大学の教授とられました。この間、先生は自ら立案した様々な研究に取り組み、口腔外科では比類ない業績を修めています。領域もTMD、骨再生、インプラント、口唇口蓋裂など多岐にわたり、それぞれの領域の第一人者となっています。また秋田大学時代には院内医科歯科連携を日常臨床として行っていました。先生の着任により、顎顔面・口腔外科学分野の研究、臨床がさらに飛躍することは間違いなく、既に効果は現れつつあります。また研究科内での研究連携、病院での歯科部門内、医科歯科間での連携が強化されるものと期待しています。

おわりに これからさらに組織改革と教授選考が進んでいきますが、中長期的な社会状況、学問の動向を見極め、的確な方向を目指さなければなりません。我が国の歯科の状況を鑑みると、国内有数の大学である東北大学にある本研究科が研究、教育、臨床を先導していかなければならないことは明らかです。教職員がこの明確な目標を共有し、力を合わせていければと心から思っています。



東北大学病院 総括副院長就任のご挨拶

— 歯科医療の転換期：健康科学から命を支える科学へのシフトにあたって —

総括副院長 笹野 高嗣

はじめに

平成24年4月より東北大学病院総括副院長を拝命いたしました笹野高嗣です。この職は、私にとって4年ぶり4回目となります。最初は、平成14年になりますが、歯学部附属病院長（当時）として、医学部附属病院との統合、国立大学法人化への対応、臨床研修必修化の準備などに関わらせていただきました。お陰様で、平成19年2月からは新病棟で、また平成22年1月からは新外来棟で医科と歯科が連携して診療する体制ができあがりました。医科・歯科の病院統合によって、歯科部門の医療安全、感染対策、医療情報管理などの環境は格段に進歩したと思われます。何よりも嬉しいことは、患者さんの利便性が向上したことです。この場をお借りして、病院統合に携わった多くの皆様に、心より御礼申し上げます。

東北大学病院の運営

さて、病院の運営は学部や研究科と多少異なり、財務管理が非常に重要です。これがまた悩みの種です。法人化後の大学運営は、国から支給された一定の補助金（運営費交付金）と外部資金等の自己収入の合算で運営される（収支バランスを保つ）ようになりました。病院も平成16年度の法人化当初は、病院運営費交付金の補助を受けておりましたが、その後、交付金は徐々に減額され、平成23年度からは、交付金なし（研究費などにかかる特定運営費交付金は除く）の自助努力により、運営されるようになりました。法人化前の歯学部附属病院（当時）の病院稼動額は11億円程度であったのに対し、平成23年度では12億5000万円を超えております。この増収は、何と云っても、病院教職員の並々ならぬ努力の賜物です。しかし、その反面、多くの教職員が多忙で疲弊している現状があります。臨床系の教員は、診療以外に、教育および研究を行うことが当然の本務ですから、各位の努力には頭が下がります。私は、任期中の最大目標として、教職員が生き活きと働くことができる環境づくりを掲げます。

これからの歯科医療

さて、口腔には約220種類の疾患が生じると言われており、その原因の多くは口腔にあります。ときに全身疾患の初発症状や随伴症状が口腔に現れる場合があります。口腔症状から重篤な全身疾患が見つかる場合も少なくありません。一方、マスク等で取り上げられているように、口腔疾患が原因となり、全身疾患を引き起こすことのエビデンスが数多く報告されています。歯性病巣感染はその代表であり、口腔細菌の数を減少させる歯科治療が全身疾患を予防する上で重要視される所以です。

近年、歯科の疾病構造には大きな変化がみられます。当院歯科部門においても、味覚障害、摂食・咀嚼・嚥下障害、顎機能障害などの疾患や病態が増えてきています。これらは、全身との関わりが深く、医科との連携が重要です。また、これらの疾患や病態は、生命活動の本質である「食」の楽しみや生き甲斐を大きく損ねてしまうことから、「命」に直接的に関わってきます。このような背景において、歯科医療は、健康科学から命を支える科学へシフトしていくものと思われます。そのためには、様々な高度・先進医療の提供はもとより、全人的医療の原点に立った口腔医療が必要と考えます。当院歯科部門では、このような現状に対応するため、医科部門とともに、質の高い温かい口腔医療を提供できるよう努力してまいります。今後ともどうか宜しくお願い申し上げます。



医科歯科連携チーム医療において周術期口腔管理のもたらす効果

副院長 島内 英俊

平成24年度診療報酬改定の重点課題の1つとしてチーム医療が挙げられ、周術期口腔管理に係る点数が設定されました。これは、がん等に対する全身麻酔下での手術、放射線治療や化学療法を実施する患者さんに対して、医科からの依頼に基づき歯科において管理計画を策定した上で、

歯科衛生士による口腔衛生処置を含む口腔ケアの実施を推進していく目的で設置されたものです。対象となる手術には、頭頸部領域、呼吸器領域、消化器領域等の悪性腫瘍手術、臓器移植、心臓血管外科手術など幅広い診療科が実施するものが含まれています。頭頸部に対する放射線治療や化学療法を実施した患者さんにおいて、唾液分泌の低下や口腔粘膜疾患の多発など多くの口腔内のトラブルが生じることが知られており、また口腔内における細菌の増加（プラークの蓄積）は術後の誤嚥性肺炎のリスクを増加させることも知られています。このような患者さんに対して歯科が連携して口腔の管理を実施することは、患者さんの早期の社会復帰に役立つと考えられます。歯科部門におきましては、本院の医科診療科に入院される患者さんを主に受け入れています。他院に入院予定の患者さんの口腔管理の受け入れも可能です。手術前における歯科的な病巣感染の除去を含め、ご相談がありましたらご紹介頂ければ幸いです。

東北大学病院歯科部門における先端的診療

対象疾患・診療内容	担当診療科・治療部	新患日
インプラント治療	インプラント外来 (顎顔面口腔再建治療部)	月～木
顎顔面補綴(エビテーゼ) 頭頸部放射線治療用スペースの作製	顎顔面口腔再建治療部	火・木
口腔顔面痛	歯科顎口腔外科	月・水・木・金
顎関節症	歯科顎口腔外科 口腔機能回復科・高齢者歯科治療部	月・水・木・金 月～金
味覚障害 ドライマウス(口腔乾燥症) 歯科用CTによる画像診断	口腔診断科	月～金
口臭 周術期の口腔ケア	予防歯科	月～金
構音障害(言語障害)	顎口腔機能治療部	月・火・水
歯科用金属アレルギー	保存修復科	水
歯の漂白(ホワイトニング)	保存修復科	月
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除術 歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	歯周病科・歯内療法科	月[奇数日] ・火・木
有床義歯補綴治療における総合的咬合・咀嚼機能検査 睡眠時無呼吸症候群に対するオーラルアプライアンス	咬合回復科	月・木
睡眠時無呼吸症候群に対する(外科)矯正治療	矯正歯科	月～金
全身麻酔下での歯科治療(歯科治療恐怖症、嘔吐反射など)	歯科麻酔疼痛管理科	火・木

新しい骨造成法 `骨膜伸展骨形成法、の開発

顎顔面・口腔外科学分野 教授 高橋 哲



種々の疾患によってもたらされる顎骨の欠損は、比較的小規模な歯槽骨欠損から大規模な下顎骨欠損まで、その大きさに応じてきわめて多岐にわたる。このような顎・顔面領域の骨の再建には、その大きさや形態に応じてGBR法、骨移植法などさまざまな骨造成法が用いられているが、これらはいずれも患者の侵襲を伴い、また術後の合併症なども少なくない。そこでより予知性が高く、患者の外科的侵襲がより少なく、そして合併症の少ない安全で確実な骨造成法の開発が求められている。仮骨延長法は、`再生医療、の一つであり、骨移植を用いることがなく、軟組織など骨以外の組織も延長できるというメリットからその応用が期待されている。現在の問題は、`骨切り、が必要で、外科手技が難しい点と、術中、術後の合併症が多い点が挙げられる。われわれは安全かつ確実な仮骨延長法の顎骨への応用を考え、仮骨延長のメカニズムの研究を始めた。その中で、骨膜細胞の進展が骨形成に重要な役割を持つことを*in vitro*にて明らかにした。次に、`骨切り、を行わなくても骨膜を延長するだけで骨を形成することができないかと考え、犬を用いた実験において、生体材料の一つ、 β TCP (β リン酸カルシウム)のブロックを下顎の骨膜下に挿入し、このブロック骨をスクリューで持ち上げ骨膜を進展する実験を行った。その結果、骨膜を進展することでそこに骨を形成することができることを示し、これを`骨膜伸展骨形成法 (Periosteal Expansion Osteogenesis)、と命名した。この方法は、骨膜に対する伸展刺激というメカニカルストレスを与えることで、骨形成を促し、また緩徐なスペースメイキングを行って骨組織の再生を促すという意味で、`Dynamic GBR、と捉えることもできる。本法は従来の骨造成法と比較して、①骨移植を必要としない、②従って骨採取部位の外科的侵襲が回避できる、③骨形成 (Osteogenesis) による骨再生を用いているので、他の骨誘導 (Osteoinduction)、骨伝導 (Osteoconduction) による骨再生に比較して骨再生が速やかに起こる、④軟組織が伸展できる、⑤生体材料はやがて自家骨に置換される、など様々なメリットを有する。現在は臨床応用のための*in vivo*の研究を行っており、また形状記憶合金を用いて自動的に骨膜を伸ばす方法も試みており、近い将来臨床応用可能な方法であると考えられる。

- 1) Yamauchi K, Takahashi T, et al. Clin Oral Implant Res. in press. 2012 2) Yamauchi K, Takahashi T, et al. Int J Oral Maxillofac Surg. 2010
 3) Yamauchi K, Takahashi T, et al. J Periodontol. 2008

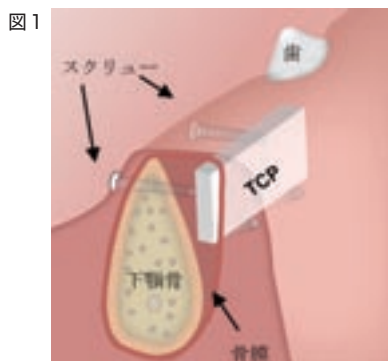


図1：骨膜伸展骨形成法のシエマ
 イヌ下顎骨の骨膜下に、 β TCPブロックを挿入し、スクリューにてブロックを水平方向に押し出すことにより、骨膜を伸展させる。

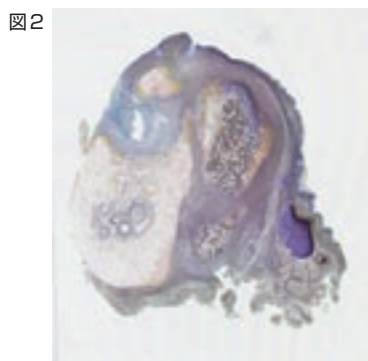


図2：骨膜伸展骨形成法により幅径拡大されたイヌ下顎骨断面 (Villanueva bone染色 X1) 良好な骨の形成が認められる。

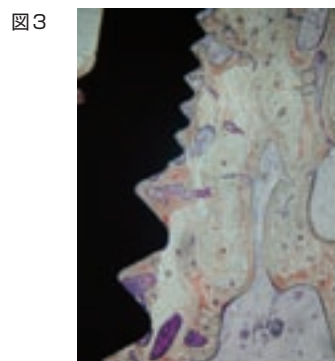


図3：骨膜伸展骨形成法によって形成された部分へのインプラント埋入部の組織像 (Villanueva bone染色 X40) 良好なオッセオインテグレーションが確認された。



東北大学歯学部創設50周年準備寄稿 (第1回)

歯学部の創設

東北大学名誉教授 越後 成志

東北帝国大学医学部附属医院は入院患者に歯科の治療を要するものが多かったことから、東京高等歯科医学校(東京医科歯科大学の前身)へ歯科医師派遣の要請を行った。医学部附属医院に昭和9年6月7日、初めて歯科の治療室が設置された。開設当時の呼称は「歯治療室」というものであった。

当初、一般の外来患者は取扱わず、専ら東北大学職員とその家族及び附属医院の入院患者だけを対象に歯科診療をしており、患者数は1日30~40名位であったと聞く。その後、広島県立医科大学で歯科口腔外科学を担当していた前田栄一助教授が迎えられ、東北大学医学部助教授に任ぜられた(昭和30年7月1日)。全国的に国立大学に歯学部を設置しようという機運が高まってきた昭和35年6月8日、医学部教授会は東北大学に歯学部を設置する方針を決定し、昭和36年度から概算要求事項とすることになった。昭和36年9月27日には、医学部が中心となり、歯学部創設準備委員会が発足した。昭和39年7月6日に歯学部創設準備委員会が東北大学歯学部設置期成同盟会の発足を計画し、9月25日発会式を仙台ホテルにおいて開催した。昭和39年7月27日に本川医学部長が長尾前東京医科歯科大学長を訪問し、歯学部設置に際して教官組織面の協力を要請した。7月30日の東北大学臨時学部長会議、および評議会においても、歯学部の設置を東北大学の昭和40年度概算要求の第1位とすることになった。

昭和40年3月10日の文部省大学設置審議会総会において東北大学歯学部の設置が認可され、昭和40年4月1日に設置された。

(詳細は東北大学百年史を参照してください。)

表 帝国大学の歯科

東京帝国大学	明治35年(1902)	医学部に歯科学講座を設置
九州帝国大学	大正11年(1922)	医学部に歯科学講座を設置
北海道帝国大学	昭和 2年(1927)	附属医院第一外科に歯科設置
大阪帝国大学	昭和 6年(1931)	附属医院に歯科設置
	昭和 7年(1932)	医学部に歯科学講座を設置
東北帝国大学	昭和 9年(1934)	附属医院に歯治療室を設置
名古屋帝国大学	昭和14年(1939)	医学部に歯科学講座を設置
京都帝国大学	昭和19年(1944)	附属医院に診療室を設置



詳細は歯学研究科ホームページ
(HP)をご確認ください。
<http://www.dent.tohoku.ac.jp/>

これからの主な行事

平成24年度

5月28日(月)	大学院歯学研究科(博士課程・修士課程) 志願者向け説明会
6月 8日(金)	東北大学歯学会 創立記念日
6月22日(金)	オープンキャンパス
7月30日(月)・31日(火)	オーブンキャンパス
8月 1日(水)～13日(月)	全日本歯科学学生総合体育大会
8月20日(月)～21日(火)	教員免許状更新講習
8月25日(土)～26日(日)	東北大学歯学部同窓会第27回卒業後研修会
10月30日(火)	医学部・歯学部合同慰霊祭

第61回東北大学歯学会開催のお知らせ

日時 平成24年6月8日(金) 15:00～
場所 東北大学歯学部B棟1階講義室
総会・一般口演・教授就任講演(高橋 哲教授)

平成24年度日本補綴歯科学会 東北・北海道支部総会ならびに学術大会

日時 平成24年10月27日(土)～28日(日)
場所 長陵会館
大会長 菊池 雅彦(東北大学病院総合歯科診療部)

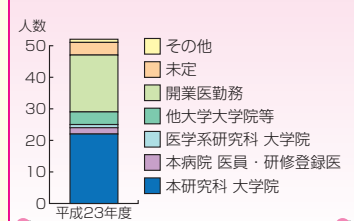
歯学研究科 大学院生募集

平成24年10月入学
募集人員: 博士課程: 若干名 修士課程: 若干名
出願期間: 6月25日(月)～29日(金)
試験日: 7月12日(木)
平成25年 4月入学
募集人員: 博士課程: 42名 修士課程: 6名
出願期間: 1次募集: 6月25日(月)～29日(金)
2次募集: 11月26日(月)～30日(金)
試験日: 1次募集: 7月12日(木)
2次募集: 12月17日(月)

平成25年度 臨床研修医(歯科医師)募集

募集人員: 単独型プログラム: 54名
複合型プログラム: 6名
申請期間: 7月 9日(月)～8月3日(金)
面接日: 8月25日(土)・9月1日(土)
申請手続き等問い合わせ先:
東北大学病院 卒後研修センター 歯科医師臨床研修係
(http://www.hosp.tohoku.ac.jp/sotugo/sotugo_sika.html)
Phone: 022-717-7765 Fax: 022-717-7143
E-mail: hos-sotu@bureau.tohoku.ac.jp

研修医の研修修了後の進路



第105回(平成23年度)歯科医師国家試験合格率

本学(新卒+既卒)	90.0%(55/61名)
(新卒)	94.5%(52/55名)
全国	71.1%(2,364/3,326名)

「歯学研究科研究者育成プログラム」採択者一覧

平成24年度	氏名	所属
岡田 諭	顎顔面・口腔外科学	
小川 珠生	顎顔面・口腔外科学	
神田 佳明	口腔システム補綴学	
木村 佳介	口腔矯正学	
吉田 倫子	口腔矯正学	
米田 博行	口腔システム補綴学	

C棟改修工事に伴う各医局の移転先

- A棟1階: 加齢歯科学、咬合機能再建学
A棟2階: 口腔システム補綴学、口腔診断学、
口腔障害科学、クリーン歯科治療部、
顎顔面口腔再建治療部
B棟2階: 口腔診断学
B棟3階: 口腔診断学



人事報告

採用	月	氏名	職名	所属
	1月	富士 岳志	助教	総合地域医療研修センター
	4月	高橋 哲	教授	顎顔面・口腔外科学
	4月	小嶋 郁穂	助教	口腔診断学
	4月	清流 正弘	助教	顎口腔矯正学
	4月	佐藤 匡	研究助教	口腔器官構造学
	4月	金谷 聡介	助教	歯学インベシジョンリエゾンセンター
	4月	川井 忠	助教	歯学インベシジョンリエゾンセンター
	4月	田中 志典	研究助教	歯学インベシジョンリエゾンセンター
	4月	新垣真紀子	研究助教	歯学インベシジョンリエゾンセンター
	4月	金原 正敬	研究助教	歯学インベシジョンリエゾンセンター
	4月	眞柳 弦	助教	インターフェイスプロジェクト支援室
	4月	竹内 裕尚	研究助教	インターフェイスプロジェクト支援室
	4月	徳川 宣靖	臨床助教	病院顎口腔機能治療部
	6月	宮下 仁	助教	顎顔面・口腔外科学
	6月	松原 琢磨	助教	病院矯正歯科
昇任	4月	細川 亮一	講師	予防歯科学
	6月	山田 亜矢	准教授	小児発達歯科学
辞職	3月	長坂 浩	講師	顎顔面外科学
	3月	中條 和子	助教	口腔生化学
	5月	池田 悦子	講師	病院矯正歯科
任期満了	3月	濱田 泰三	教授	口腔ケア推進開発寄附講座
	3月	本田 義知	研究助教	インターフェイスプロジェクト支援室
	3月	白石 成	研究助教	インターフェイスプロジェクト支援室
定年退職	3月	小松 正志	教授	歯科保存学
	3月	越後 成志	教授	口腔外科学
	3月	川村 仁	教授	顎顔面外科学
	3月	林 治秀	教授	口腔生理学
	3月	田浦 勝彦	講師	病院予防歯科学

お知らせ

・キャンパス内全面禁煙化(2011年10月1日から)

編集後記

昨年の東日本大震災後、心身の健康を常に保つことの大切さを感じています。皆様方におかれましてはいかがでしょうか。
今回、歯学部創設50周年を3年後に控え、連載を始めました。寄稿を御快諾いただいた越後先生の御厚意に編集委員一同深く感謝しております。これからの歯学研究科の発展を願う時、創設期の史実を共有する一助になれば幸いです。このニュースレターを通じてお伝えしたいことがございましたら、下記までお知らせください。
(記 奥山)

編集委員 奥山弥生、清水良央、遠藤英昭、佐藤拓一、小関健由

東北大学大学院歯学研究科広報委員会

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号
Phone: 022-717-8244 Fax: 022-717-8279
URL: <http://www.dent.tohoku.ac.jp/> E-mail: newsletter@dent.tohoku.ac.jp